

新年のごあいさつ

仙北市長 田口 知明

仙北市民の皆さま、あけましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げますとともに、旧年中の市政へのご理解とご協力を賜りましたことに心より感謝を申し上げます。

昨年は元日にマグニチュード7・6最大震度7という地震が石川県能登半島で発生し、400人以上の尊い命が奪われ、全壊家屋が8千棟以上にのぼり、甚大な被害となりました。9月には豪雨被害にも見舞われ、現在も避難生活を余儀なくされている方々が多数おり、復旧、復興もまだまだ道半ばですので、一日も早く日常を取り戻せることをお祈りいたします。

仙北市では能登半島地震・大雨復興支援としてふるさと納税の代理寄付の受付を実施し、多くの皆さまから多額のご支援をいただき、昨年は約3千万円を石川県庁へお届けいたしました。今年も4千5百万円を超える支援金をお届けする予定です。

7月には秋田県や山形県で大雨被害が発生し、仙北市では人的被害や建物被害は発生していないものの、林道の一部崩落や田の畦畔の損壊などの農林水産関係で被害がありました。

毎年のように発生している、地震や台風、線状降水帯による大雨被害、夏場の高温などの異常気象は、もはや特別で稀なものではなく、常に自然災害の発生に備えていかなければなりません。

仙北市では今年も防災訓練の実施や、災害発生時に迅速に対応し市民の皆さまの命と暮らしを守るための備えを万全にして、安心・安全に暮らせる仙北市を実現してまいります。

世界に目を向けますと、2022年から現在も続くロシアのウクライナ侵攻、そしてイスラエルによるガザ侵攻も未だ出口が見えず、昨年12月3日には、韓国ユンソンヨル大統領から突如「非常戒厳」が宣布され、翌朝解除されましたが大きな混乱を韓国国内に引き起こしました。また12月8日には50年以上続いたシリアのアサド独裁政権が崩壊し、世界を驚かせました。

めでたい年頭のご挨拶にこのような災害や戦争の話はふさわしくありませんが、頻発する自然災害や混沌とする世界情勢を見据えながら、仙北市が直面している課題や困難から目を背けることなく、財政改善や少子化、老朽化した公共施設の修繕や解体など、一つ一つ改善に取り組み、今年も市民幸福度の向上を目指して仙北市役所一丸となって努力いたします。

昨年仙北市にとってたくさんさんの喜

ばいできごとがありました。すべてを記載することはできませんので少しだけ振り返りたいと思います。

1月23日にインターナショナルスクール誘致視察ツアーを実施し、5つの学校から経営者や経営幹部が参加され、そのうちの1校から仙北市での開校に向けて、現在検討および準備を進めていただいております。秋田県内では初めての導入となる医療Maas車両「せんぼく医信電診丸」の出発式を2月2日に行い、病院や診療所へ通院が困難な市民の皆さまへ優良な医療の提供を目指してのチャレンジがスタートしました。新たな仙北市観光大使に、共に角館町出身で秋田ノーザンハピネッツ所属、バスケットボール選手の田口成浩さん、ラート選手の高橋靖彦さんのお二人にご就任をいただきました。5月31日に長崎県大村市との姉妹都市提携締結45周年記念式典が大村市で開催され、仙北市から48名が出席いたしました。12月15日に国道105号大曲鷹巣道路の大覚野峠トンネル工事の起工式が上松木内の山鳩館で行われ、急カーブや急勾配が続く道路の危険箇所解消工事がいよいよ始まります。

そして、コロナ禍により減少していた観光入込客数が約400万人弱、宿泊客数は約46万人まで回復してきており、特に台湾をはじめとするインバウンド旅行者がたくさん仙

北市にお越しいただけるようになりました。

今年も全国有数の観光地である仙北市に、国内外からより多くの観光客にお越しいただき、仙北市の魅力を堪能していただきたいと思っています。

私からの新年のご挨拶はこれで4回目となりますが、改めて初心に立ち返り、幸福度全国ナンバー1の仙北市を目指して、誠実に、正直に、市民の皆さまの声を今まで以上に聞きしながら、市長の責任を果たしてまいります。

市民の皆さまにはどうぞ本年も、市政運営へのご理解と共に、様々な場面においてご意見やご協力をいただきますようお願い申し上げます。

今年一年が皆さまやご家族さまにとりまして、笑顔と喜びに満ちたすばらしい年となりますよう心からお祈りを申し上げます、私からの新年のご挨拶とさせていただきます。



全日本視覚障害者囲碁大会

文部科学大臣賞受賞&大会2連覇達成！

11月16日と17日、岐阜県高山市で行われた「清流の国ぎふ」文化祭2024 囲碁の祭典 全日本視覚障害者囲碁大会で、荒川光晴さんが見事優勝し、文部科学大臣賞受賞・大会2連覇を達成しました。

12月12日には、市役所角館庁舎を訪れ、田口市長へ受賞を報告しました。

荒川さんは決勝戦の対局を振り返り「対戦相手が同じく5段の相手となり、競り合った試合となったが優勝してよかった。来年は、長崎県で同大会が開催を予定しており、また参加したい」と話しました。



田口市長へ受賞を報告した荒川さん（写真右）

令和6年秋の叙勲

＜秋の叙勲＞

瑞宝単光章

専門工事業務功労



館岡 利喜 さん
(64 歳 角館町西長野)

山岡工業株式会社取締役管工事部部長。昭和55年から管工事業一筋に専心。また、令和2年優秀施工者国土交通大臣顕彰を受賞。計画的な施工や高水準の安全管理、後進の指導育成などに尽力し、管工事業の発展に大きく貢献されています。

令和6年秋の叙勲が発表され、仙北市からは次の方が受章されました。心からお祝い申し上げます。
(※年齢は、受章時を掲載)

栄光・表彰

～輝くとき

食生活改善に尽力

令和6年度

厚生労働大臣表彰

仙北市食生活改善推進協議会の鈴木順子会長が栄養関係功労者として厚生労働大臣表彰を受賞し、11月14日に市役所角館庁舎を訪れ、赤上副市長に報告しました。

鈴木さんは、食を通じた健康づくりのボランティア活動を行っている食生活改善推進協議会の推進員として、昭和63年から永年にわたり、地域住民の健康づくりや栄養・食生活改善に寄与し、その組織作りにも尽力されたことが認められ、今回の受賞となりました。



写真左から須田教育長、齋藤さん、長谷川さん、田口市長。

2人は「ペアダンスとして、2人の動きを揃えるのが大変だった。鏡を見ながら練習して調整をした」と優勝に向けて心掛けた点を話しました。

受賞報告の冒頭では、大会で踊った1曲を披露。田口市長と須田教育長から、大きな拍手と歓声が贈られました。

2人は、3月15日に神奈川県で開催される全国大会へ出場が決まり、入賞に向けて練習を頑張りたいと意気込みを語りました。

11月29日、高円宮杯第76回全日本中学校英語弁論大会の決勝大会が、有楽町よみうりホール（東京都）で開催され、小原理子さん（神代中・3年）が出場しました。

この大会は、全国から10万人が参加し、各地区予選大会で選ばれた151人から、27人のみが決勝大会へ出場できます。

12月16日に、市役所西木庁舎を訪れ、須田教育長へ出場の報告をした小原さんは「全国大会だったので、他の参加者のレベルが高かった。その中の1人として出場できたことは、とてもよい経験となった」と話しました。

決勝大会へ出場した小原さんには、賞状とメダルが贈られました。



第76回全日本中学校英語弁論大会 決勝大会出場



「大切な命を守る」全国中学・高校生作文コンクールで審査員奨励賞を受賞

警視庁が主催する、被害者を生まず誰もが安全・安心して暮らせる社会を実現することを目的に開催されている、令和6年度「大切な命を守る」全国中学・高校生作文コンクールで、佐藤伊咲季さん（神代中・2年）が審査員奨励賞を受賞しました。

12月16日に、市役所西木庁舎を訪れ、須田教育長へ受賞の報告をした佐藤さんは「審査員奨励賞は、全国で第4位に該当する賞。このような賞を受賞できたことはとても嬉しい」と話しました。

受賞した佐藤さんには、賞状と楯が贈られました。

地域医療に尽力

第62回社会貢献者表彰

公益財団法人社会貢献支援財団が主催する社会貢献者表彰が、帝国ホテルにて12月2日に開催され、安倍昭恵会長より、市川晋一西明寺診療所所長が表彰されました。

永年にわたる地域医療への貢献や、遠隔診療である医療MaaSの導入などが評価され、今回の受賞となりました。

市川所長は市長への受賞報告のなかで「診療所スタッフや地域の皆さん、仙北市役所など『チーム仙北』でいただいた表彰」と述べられています。



写真左から市川所長、田口市長。

永年の統計調査に対する功績

令和6年度秋田県統計功労者表彰

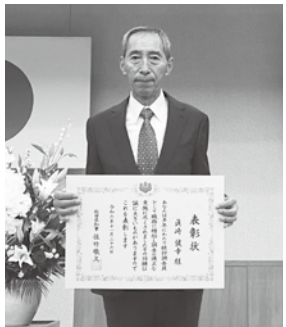
統計に関して功績のある個人および団体を表彰し、統計への認識を深める目的で、11月26日に秋田県庁第2庁舎において令和6年度秋田県統計功労者表彰式が開催されました。

永年の統計調査における功績が認められ、仙北市からは長谷川善樹さん（田沢湖生保内）、藤村春彦さん（田沢湖岡崎、眞崎誠幸さん（田沢湖卒田）が秋田県知事表彰を受賞しました。

また、統計教育功績者として、松木内中学校の田中一教諭が秋田県知事表彰を受賞しました。



藤村春彦さん



眞崎誠幸さん



長谷川善樹さん



田中一教諭

技能向上促進に寄与

令和6年度秋田県優良技能者表彰



11月18日、秋田市のミルハスを会場に第56回秋田県職業能力開発促進大会が開催され、藤井勉さんが令和6年度秋田県優良技能者として、秋田県知事表彰を受賞されました。

この表彰は、技能者の社会的地位と技能水準の向上を図ることを目的に県内の優良技能者を表彰するもので、今年度は3人が受賞されました。

藤井さんは、社寺仏閣の入母屋などの製作技術に長けており、これまで社寺仏閣150件以上の建築を手掛けるなど、宮大工の技能において業界の第一人者として活躍されています。また、社員は技術力向上のため、手工具による宮大工本来の姿を追求した指導を行っており、各種競技大会で、入賞者を複数輩出するなど、後進の育成に尽力していることなどが認められ受賞に至りました。



児童よびかけで、今までの思い出を振り返りました。



校歌斉唱。体育館に子どもたちの声が響き渡りました。



田口知明市長の式辞では「明治7年の開校以来、4878人の卒業生を輩出し、学び舎であるとともにコミュニティの拠点として、地域活性化にも大きな役割を果たしてきた。角館小学校と統合後も力強く、自信を持ち様々なことにチャレンジしてほしい」と話しました。

鈴木徹校長は児童に対して「白岩小学校で過ごした思い出を忘れないでほしい。統合後も、白岩ささらや白岩焼などの文化を引き継いでほしい」と呼びかけました。

全校児童によるよびかけでは「全力でゴールを駆け抜けた住民運動会」「暑い中、一生

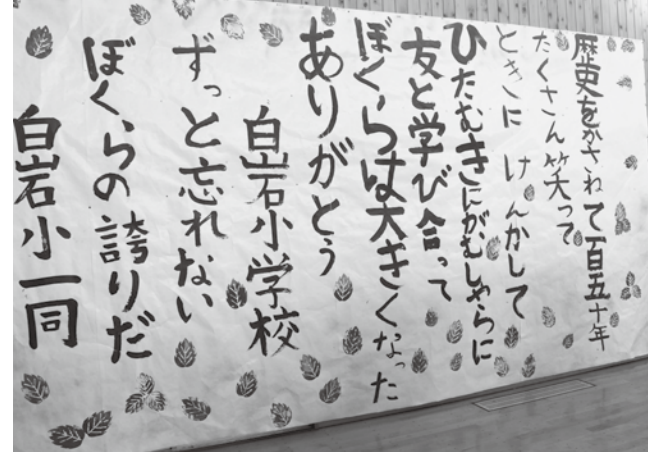
懸命舞った白岩子どもささらと巫女舞」「全校生徒39人の心を1つにして作り上げた学習発表会」など、最後の1年の学校行事や日常生活の思い出を振り返りました。また、あたたかく見守ってくれた地域の方やこれまで素晴らしい歴史と伝統を築いてくれた先輩方へ感謝の言葉を述べました。

校旗返納では、鈴木校長と代表児童が登壇し、田口市長と須田教育長に校旗を返納。式の最後には、会場全員で歴史ある校歌を斉唱。忘れられない1日になりました。



三ツ柏の校章が刻まれた校旗を掲げたのち、校旗を返納しました。

11月23日、白岩小学校の閉校式が同校体育館で行われ、児童や地元住民、教職員など約280人が参加し、150年の歴史を振り返り別れを惜しみました。



白岩小学校 150年間の歴史と伝統をありがとう

白岩小学校は、令和7年3月31日をもって150年の歴史に幕を閉じます。
白岩小学校は1874年に創立し、これまで4878人の卒業生を輩出しています。
令和7年4月には、角館小学校と統合します。

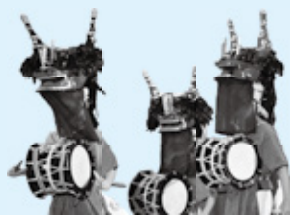
白岩ささら（県指定無形民俗文化財）

白岩地域に400年以上伝わる郷土芸能。3頭の獅子とザッザカと呼ばれる道化役がリズムカルな舞を披露します。新仏供養・五穀豊穡を願い、お盆行事の一つとして開催されています。



白岩焼

白岩焼は、江戸時代の開窯し明治期に途絶えますが、復興をはたしました。茶器や花器などがつくられています。独特の「青」が特徴的で、抽象的な造形の美術作品も製作されています。



白岩地区の伝統・文化



新年のご挨拶

佐藤 成真

明けましておめでとうござい
す！地域おこし協力隊の佐藤成真（ナ
リマサ）です。令和7年の幕開けに
際し、皆さまにとって希望に満ちた
1年となることを心よりお祈り申し
上げます。

新しい年の始まりは、誰にとつて
も心を新たにする絶好の機会だと思
います。私にとって今年は人生の大
きな分岐点になることが予想されま
す。というのも、今年の9月末に協
力隊の任期が満了するからです！

「任期後に何をやるのか」は地域お
こし協力隊にとって重大なテーマで、
任期中は常に意識しているものだと思
います。私は着任前から色々考え
ておりましたが、地域おこし協力隊
の活動を通して新たに挑戦してみたい
ことに出会えました。それが「農
家民宿の経営」です。私のミッシヨ
ンは「グリーンツーリズムの促進」で、
農家民宿や民宿をやられているお父
さんお母さんと交流する機会が多々
あるのですが、話を聞いたり、遊び
に行ったりしているうちに、自分も
お客さんを受け入れてみたいになりま
した。私みたいな未熟者がグリーン

ツーリズム先進地である仙北市で開
業するのはプレッシャーですが、周
りには何十年も受け入れを続けてき
ているベテランがたくさんいらっ
しゃり、皆さんとても親切に色々教
えてくださるので、ゼロから始める
より断然気が楽です。巨人の肩に乗っ
たつもりで、仙北市のグリーンツー
リズム発展に少しでも役に立てるよ
う精進して参りますので、これから
も温かい目で見守ってくださいませ。
農家民宿以外にも今まで通り映像
制作や、クリエイティブな技術を活
かした創作活動（VRやARなど）
をガッツリやっていく予定ですので、
乞うご期待！

今年も、皆さま一人ひとりが日々
の中で小さな達成感を積み重ね、そ
の先にある大きな喜びを実感できる
1年となりますように。
改めまして、本年もどうぞよろし
くお願い申し上げます。



友人が運営しているポッドキャストに出演して
いる様子。

高校生のボランティアで活気あふれる

大仙・仙北広域圏日本語講座 角館教室

毎週日曜日、角館交流センターを会
場に在留外国人のための日本語講座が
開催されています。

この講座は大仙・仙北広域圏日本語
講座運営委員会が主催し、大仙市、仙
北市、美郷町でそれぞれ行われていま
す。

角館教室では、高校生がボランティ
アとして参加しており、毎回、活気あ
る教室となっています。

12月8日は小野崎家で行われ、指導
者のほかに、角館高校3年生の佐々木
詩音さん、門脇柚香さん、同校2年生
の岩田絢さんがボランティアとして参
加していました。当日は、外国人の生



日本語のクイズを出題。楽しく日本語を学べます。



徒を含み約10人が参加。テキストやホ
ワイトボードを使用し、日本語の読み
書きを勉強したり、日本語や英語で雑
談を交えたり会場は和やかな雰囲気
に包まれていました。
佐々木詩音さんは「以前から、外国
人の方へ日本語を教えたいと思って
いたところ、この日本語講座を紹介し
てもらい参加している。講座を通じて、
国際交流の場にもなっている」と話し
ました。
日本語講座に関心のある方や異文化
交流に興味がある方がいましたら、仙
北市教育委員会生涯学習課（☎43・
3383）までお問い合わせください。

どんなおしごとがあるのかな？

おしごと体験キッズマルシェ

11月24日、角館交流セ
ンターを会場に「おしごと
体験キッズマルシェ」が
開催されました。このイベ
ントは、仙北市に居住ま
たはゆかりのある女性た
ちが「仙北市にはどのよ
うな仕事があるのか子ど
もたちに知ってほしい」と
いう思いから企画・運営
を行ったものです。当日は
高校生がボランティアス
タッフとして子どもたち
のおしごと体験をサポー
トしました。



田口市長と名刺交換。



田口市長と記念撮影。

旬な情報チャンネル

会場にはカフェ店員や
樺細工職人など24職種の
体験ブースが設けられ、仙
北市内外から約600人の
家族連れが参加し、そ
れぞれの仕事の魅力に触
れました。
市長体験ブースでは、
自分で名前を書いたオリ
ジナル名刺を作成し、田
口市長との名刺交換を行
いました。子どもたちは市
長に大きな声で自己紹介
する場面も見られました。

仙北市内の学校給食に秋田牛

西明寺小学校で「秋田牛」出前講座



12月11日、秋田牛
の認知度向上と消費
拡大を目的に、仙北
市内の学校給食で秋
田牛の牛丼が提供
されました。

これは、秋田牛
ブランド推進協議
会（事務局…株式会
社秋田県食肉流通公
社）と秋田県の実施
によるもので、秋田
牛販売力強化支援事
業により、伊藤則夫

さん（西木町上荒井）が生産したAランクの秋田牛
が提供されました。

西明寺小学校では、給食の前に生産者などによる「秋
田牛」出前講座が行われ、秋田県の担当から秋田牛の
特長が説明されたほか、地元で秋田牛を生産する伊藤
則夫さんが、秋田牛の育て方などについて話しました。
給食を食べ終わった児童たちは「おいしくて、おかわ
りした」「また食べたい」などの感想を話し、ご飯が入っ
た容器は、あっという間に空になりました。

拉致問題啓発舞台劇

「めぐみへの誓いー奪還ー」 仙北市公演



劇中でのワンシーン。

11月29日、仙北市民会館で拉致問題啓発舞台劇
「めぐみへの誓いー奪還ー」仙北市公演が上映され、
仙北市内の中学生を含め651人が鑑賞しました。
この舞台劇は、当時中学1年生だった横田めぐ
みさんが、北朝鮮へと拉致された当時から現在ま
での拉致問題を描いた作品です。

開演前、脚本・演出を手がけた野伏翔監督が「拉
致被害者のご家族の高齢化が進み、拉致問題解決
に向けて一刻の猶予も許されない状況にある。こ
の舞台を通じて、拉致問題の認識を深め、私たち
が今何ができるかを考えてほしい」と話しました。

本舞台劇は、国民が拉致問題への認識を深め、
北朝鮮による拉致問題について一層の関心を持つ
てもらえるよ
うに政府が企
画し、地方公
共団体との共
催により全国
各地で実施し
ています。

安全・安心な走行を目指す

大覚野峠防災起工式典



12月15日、佐竹知事、田口市長、津谷北秋田市長をはじめ多くの関係者が参加し、上桧木内の山鳩館を会場に、一般国道105号大覚野峠防災起工式が開催されました。

国道105号は県南と県北と結ぶ重要な路線ですが、大覚野峠は急カーブが多く土砂崩れや雪崩などがたびたび発生しており、災害に強い道路整備を行うものです。

式では地域を代表して、桧木内小学校6年生の齋藤和志さんが「道路が整備されたら、家族で鹿角や大館に出かけ思い出をたくさん作りたい。車の免許を取ったら自分の運転でも行ってみたい」と期待を込めて発表を行いました。最後には鍬入れのセレモニーが行われ、華々しく工事のスタートが宣言されました。

農業の発展に向けて

仙北市内の3人が秋田県指導農業士として認定



写真左から高橋さん、荒木田さん、千葉さん。

11月12日、秋田市のANAクラウンプラザホテル秋田で開催された令和6年度秋田県農林水産フォーラムにて、秋田県農業士認定証書授与式が行われました。

地域農業振興や農村活性化においてリーダー的な役割を果たし、地域農業の実践を通して青年農業者の育成指導を担う人材として、県内で20人が新たに農業士として認定されました。仙北市からは、荒木田浩生さん、高橋宗さん、千葉智永さんの3人に指導農業士の認定証書が授与されました。

地域農業の担い手として質の高い農業経営をさらに推進していくとともに、今後の指導農業士としての活躍も期待されます。

西明寺中学校

医療 MaaS（マース）遠隔診療システムを体験



11月22日、西明寺中学校にて市川晋一医師（西明寺診療所所長）を講師に迎え、生徒68人が地域医療の抱える問題と今後の在り方について学びました。

市川医師は、「地域医療を支える遠隔診療は、交通弱者の患者にも働く医師にも有用。今後は医療従事者の増員と育成が重要である」と話しました。実際に医療MaaS車「せんぼく医信電診丸」の遠隔診療を体験した3年の石郷岡怜さんは「遠隔診療が診療所の診察とほとんど変わらないのに驚いた。私たちの中から医療の道に進む人がいればいいなと思う」と感想を述べました。

おなごりフェスティバル2024

グラウンド・ゴルフ大会を開催しました



11月23日、角館グラウンド・ゴルフ場（旧 花葉館グラウンド・ゴルフ場）を会場に「おなごりフェスティバル2024グラウンド・ゴルフ大会」が開催されました。

この大会は、角館町グラウンド・ゴルフ協会が主催し、グラウンド・ゴルフを通して、仲間とともに楽しみながら健康づくりを推進する目的として行われました。

当日は、気持ちのいい秋晴れに恵まれ、会場は和気あいあいとした雰囲気になりました。

砂ネットワーク」が主催し、「田沢湖ざつくばらんの会」の共催で開催されました。サミットは、全国持ち回りで開催され、田沢湖では10年ぶり2回目の開催となりました。

16日は、田沢湖の白浜や田沢湖クニマス未来館などを視察。17日には、東北大学特任教授の原口強氏が「田沢湖が生んだ貴重な鳴砂」とする演題で、鳴砂の復活に向けた基調講演が行われたほか、田沢湖の清掃活動に携わった団体が表彰されました。

また、田沢湖ざつくばらんの会から鳴砂の復活を目指した清掃活動の取り組みと、生保内中学校1年生から活動報告が発表されました。



11月16日と17日の2日間、亀の井ホテル田沢湖を会場に「2024全国鳴砂サミット in たざわこ」が開催され、全国から保全活動に取り組む関係者など約50人が参加しました。

これは、全国の鳴砂の浜を保全する活動に取り組む行政や団体などで組織する「全国鳴

2024 全国鳴砂サミット
in たざわこ

湖と人のつながりふたたび

株式会社メンズアキタソーイングが認定



田沢湖で高級ブランド服を作っている株式会社メンズアキタソーイング（高橋康一郎代表取締役）が、市内の企業では初めて「えるぼし」の認定を受けました。

「えるぼし」は、女性の活躍が優良な企業を国（厚生労働省）が認定する制度です。3段階の基準のうち、最も厳しい基準を達成しての認定となり、これより上位は「プラチナえるぼし」のみです。

高橋代表は「これに満足せず、これからも女性が働きやすい、女性が輝ける企業であり続けたい」と抱負を語りました。

（百寿）おめでとうございます

藤原ハツさん

11月18日、藤原ハツさん（田沢湖田沢）が100歳の誕生日を迎えられ、仙北市からお祝いが贈られました。

税についての作文

全国納税貯蓄組合連合会・国税庁主催、仙北市共催で募集していた中学生の「税についての作文」で、佐々木玲旺さん（西明寺中1年）の作品「税はなぜ作られて何に使われているのか」が、仙北市長賞を受賞しましたので、全文をご紹介します。また、関谷菜桜さん（西明寺中3年）が大仙仙北地区租税教育推進協議会会長賞を受賞しました。

仙北市長賞



佐々木玲旺さん
（西明寺中1年）

「税はなぜ作られて何に使われているのか」

みなさんは、税と聞いてどんな印象を持つでしょうか。自分はこれまで税と聞くとなんとなく良くないものという印象がありました。

なぜなら、ニュースや新聞などで税に対する明るい報道を見たことがなく、税金が高くて大変だと言っている大人が多いからです。そこで実際に調べてみると警察や学校、道路にも使われていることが分かりました。予想以上に自分は税について何も分かっていなかったことが分かりました。それで、なぜそんなに嫌な顔をするのか、親などの周りの大人に聞いてみると、今は、税金が高くなっていて商品の値段も高くなっているからと言っていました。税についてもっと知りたいと思い、もう少し調べてみると、警察や学校、道路などに使われているだけではなく、社会の問題を解決するために税が作られていることが分かりました。例えば、コロナウイルスなどのワクチンは無料で受けることができます。なぜなら、ワクチンには、国で納められた税金が使われているからです。だから、税金は、人々を助けてくれる、とてもいいものだと思います。今までは、税金の使われ方だけ考えていましたが、社会の問題を解決するために、制定される税があることを知って、驚きました。例えば、アメリカでは、肥満の

善意ありがとうございます

角館感恩講から 寄付金をいただきました



佐々木常務理事（右）から須田教育長へ手渡されました。

11月18日、一般社団法人角館感恩講（加賀谷宏一理事長）から、仙北市教育委員会へ育英奨学金事業に役立ててほしいと、寄付金をいただきました。
同法人では、地域福祉の向上を目指した事業に取り組み、奨学金事業への寄付についても、昭和56年度から続けられています。
市役所西木庁舎で行われた贈呈式では、佐々木常務理事が「子どもたちのために、これからもできるだけ続けていきたい」と話し、須田教育長へ手渡されました。

ロータリークラブから 観光案内看板をご寄付いただきました



国際ロータリー第2540地区（佐藤和志ガバナ）のホストクラブである、田沢湖ロータリークラブ（熊沢正志会長）から、観光案内看板をご寄付いただきました。11月17日に開かれた地区大会記念事業として、地域観光振興に役立ててほしいとの思いから今回の寄付に至りました。
設置された場所は、田沢湖を見下ろす絶景スポット「アルパこまくさ」敷地内で、車を停めて写真を撮る方も多い人気のフォトスポットです。ぜひ足をお運びください。

西明寺小学校6年生からJ A 秋田おばこを通じて寄付金を いただきました

12月16日、西明寺小学校6年生からJ A秋田おばこを通じて、災害援助に役立ててもらいたいと仙北市に寄付金が贈呈されました。

この取り組みは、J A秋田おばこ仙北市営農センターと西明寺小学校が連携した食育事業として、平成23年から行われています。西木地区の佐藤一也さんのほ場をお借りして、6年生13人がネギの選定作業から収穫、販売まで一連の農業を体験しています。収穫したネギは、仙北市産業祭で販売し、

その代金が寄付金として贈られました。

贈呈式は、市役所角館庁舎で行われ、J A秋田おばこの齊藤武志代表理事組合長から田口市長へ贈呈されました。



齊藤代表理事組合長（左）から田口市長へ手渡されました。

税に関する習字

仙北市主催で募集していた小学生の「税に関する習字」で、受賞した方を次のとおりご紹介いたします。
※氏名の表記は原文のまま掲載しています。（敬称略）

最優秀賞



八柳悠太郎さん
（角館小4年）

入選おめでとうございます

金賞

◆齋藤ことみ（角館小5年）

◆小松凜（角館小4年）

◆やな田にこ（西明寺小2年）

銀賞

◆鈴木咲希（角館小6年）

◆八柳凜星（西明寺小6年）

◆さいとう雪花（角館小3年）

◆永山あかり（角館小3年）

銅賞

◆小松楓（角館小6年）

◆高坂結咲（角館小6年）

◆高田帆羽季（生保内小5年）

◆高橋凜名（神代小4年）

◆梁田いちほ（西明寺小4年）

◆佐とうみや毘（角館小3年）